

香港でドローンによるフードデリバリー開始

大分銀行 香港駐在員事務所 所長

江口 博史

「低空経済」という言葉をご存知でしょうか？地上から約1,000mまでの空域を活用した新たな経済活動のことで、中でもドローンを利用した配送サービスが注目を集めています。

前稿では、中国深センの自動運転タクシーを紹介しましたが、ハイテク都市深センでは、ドローンのフードデリバリーも既に実用化されています。



深センのドローン配送 自動受取ステーション

そして、香港においても、2025年6月から、ドローンによるフードデリバリーサービスの実証実験がスタートしています。今回は、その体験レポートをお届けします。

このサービスを提供しているのは、中国のフードデリバリー大手・美团の子会社であるKeeta Drone（キータドローン）です。香港のイノベーション拠点である「香港サイエンスパーク」内のレストランから、約1.8km離れた馬鞍山公園まで、ドローンで食事を届けるというものです。



(地図：中心市街地から離れた、安全性の高い場所で実証実験が行われています)

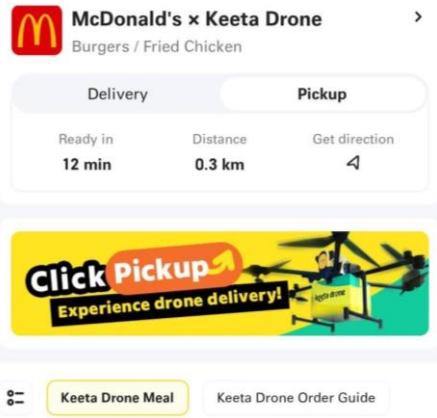
※写真は筆者撮影

香港でドローンによるフードデリバリー開始

大分銀行 香港駐在員事務所 所長

江口 博史

注文は、専用のアプリから簡単に行えます。今回は、マクドナルドのハンバーガーセットを注文してみました。



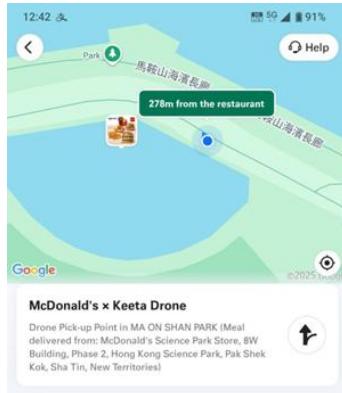
Keeta Drone Meal



(写真：アプリの注文画面)

テリヤキバーガーセットは、ドローンデリバリーの価格30香港ドルが加算されて、86香港ドル（約1,600円）！！

注文から約10分後、アプリに「ドローンが出発しました」の通知が届きます。



#PU5634 • Preparing order

Your order is being prepared. Please pick it up once ready.



(写真：アプリで表示される配送状況)

※写真は筆者撮影

香港でドローンによるフードデリバリー開始

大分銀行 香港駐在員事務所 所長

江口 博史

公園の指定エリアで待っていると、海の向こうから小さな点がだんだんと大きくなり、ドローンの形が見えてきました。ドローンは海上で一旦ホバリングした後、受け取りの指定エリアに正確に到着しました。



(写真：ドローン着陸用ブースの様子)

深センでは、受け取りも自動化されていますが、香港では安全確認のため、係員が丁寧に受渡しを行ってくれます。

開封してみると、飲み物は一滴もこぼれておらず、ハンバーガーもポテトも程よい温かさが保たれていました。「空を飛んできたハンバーガー」という特別感が、普段とは違った特別な味わいを感じました。



(写真：デリバリーされた商品)

※写真は筆者撮影

香港でドローンによるフードデリバリー開始

大分銀行 香港駐在員事務所 所長

江口 博史

Keetaの係員に話を聞いたところ、現在はまだ試験運用段階で、利用者は主にメディア関係や私のような体験目的の人に限られているそうです。一方で、運営ノウハウは中国本土ですでに確立されています。そのため、香港では規制や安全性を確認しながら、将来的な無人運用への移行を計画しているとのことでした。

香港政府は、低空経済を「新たな競争力」と位置付け、2030年までに産業規模を数十億香港ドルに拡大する目標を掲げています。今後は、離島や郊外への医薬品配送など、食品以外の分野への応用も期待されています。

日本でも、ドローンによる実証実験が各地で進められていますが、法整備や安全基準など、乗り越えるべき課題は少なくありません。低空経済は、過疎化の進む地方や災害時の物資輸送など、将来の社会インフラを支える可能性を秘めた分野です。香港をはじめとした海外での取組み事例が、日本国内での普及の参考になるかもしれません。

※写真は筆者撮影